

「情報処理学会論文誌 プログラミング」の編集について

論文誌プログラミング編集委員会

1. 対象分野

プログラミングはコンピュータの誕生と同時に生まれた伝統的な分野であるが、コンピュータがある限り不可欠な技術である。並列分散処理やマルチメディア応用など処理内容が高度になるにつれて、プログラミングの重要性は増すことがあっても減ることはないであろう。

「情報処理学会論文誌 プログラミング」は、プログラミングに関するテーマ全般を専門に扱う論文誌である。具体例として次のようなテーマがあげられる。

- プログラミング言語の設計, 処理系の実装
- プログラミングの理論, 基本概念
- プログラミング環境, 支援システム
- プログラミング方法論, パラダイム

これらを応用したシステムの開発事例も対象に含まれる。また、上記以外でも、プログラミングに関する面白い話題であれば対象となる。

2. 編集方針

本論文誌は、プログラミング発表会における発表と論文誌投稿が密接にリンクされている点に特徴がある。論文誌への投稿者が用意する研究会発表用の資料が、内容的にそのまま本論文誌への投稿論文となる。

研究会発表をせずに本論文誌に投稿することはできないが、逆に、本論文誌への投稿をともなわない研究会発表は可能である。そのような発表や、論文が不採録となった発表については、アブストラクトが本論文誌に掲載される。

本論文誌に掲載する論文は、通常のオリジナル論文と、サーベイ論文の2種類とする。どちらの種類であるかは、著者自身の指定によって決まる。論文の記述言語は日本語、英語のいずれかとする。論文の長さには制限は設けない。

3. 査読基準

基本的に、減点法に陥ることを避け、論文の良い点を積極的に評価するという方針を貫く。具体的には、新規性や有効性などの評価項目のうち、どれか1つの点で特に優れていると認められるならば採録する。体裁だけが整った論文より、若干の不備はあっても技術的な貢献の大きい論文を積極的に受け入れる。

このような観点から、たとえば次にあげるような、従来は論文としてまとめることが難しかった内容について論じた論文もできるだけ受け入れる。

- プログラミング言語の設計論
- システムの開発経験に関する報告
- 斬新なアイデアの提案
- 概念の整理, 分類法, 尺度の提案
- 複数のシステムその他の比較

4. 投稿から掲載までの流れ

本論文誌への投稿希望者、および発表会での発表希望者は、発表会開催日の約2カ月前までに発表申し込みをする。具体的方法は研究会ホームページ (<https://sigpro.ipsj.or.jp/>) を参照していただきたい。申し込みの際には、所定の申し込みフォームに本論文誌への投稿の有無、オリジナル論文とサーベイ論文の種別指定を明記する。また、アブストラクト(和英両方、和文は600字程度)を提出する。

論文投稿を希望した場合は、研究発表会の約1カ月前までに、別に定めるスタイル基準に従ったカメラレディ形式で論文を提出する。

毎回の研究発表会の直後、編集委員会が開催され、各論文について1名の査読者が決定される。査読報告をもとに、編集委員会は採録、条件付き採録、不採録のいずれかの判定を行い、発表会開催後3週間程度で発表者に採否通知を行う。照会の手続きはないが、条件付き採録の場合は採録のための条件が示される。また、論文改善のための付帯意見が添付される場合がある。この場合は、3週間以内に改良版を作成する。最終的に採録となった論文が、学会の諸手続きや校正を経て掲載される。

英文論文については、2015年1月から Journal of Information Processing (JIP) との連携が始まっており、JIP に正本が掲載され、本論文誌にそのプレプリントが掲載される。

本論文誌は、電子図書館(情報学広場:情報処理学会電子図書館)上にオンライン出版され、研究会登録者は発行直後から無料で閲覧できる。また、発行後2年経過した論文誌は無料で閲覧できる。英文論文が掲載される JIP はオープンアクセスである。

5. 2020 年度の活動のまとめ

2020 年度は第 129～133 回の研究発表会を以下の日程で開催した。新型コロナウイルス感染症への対策のため、本年度の研究発表会はすべてオンラインで開催された。

- 6 月 1～2 日 オンライン開催
- 7 月 30～31 日 オンライン開催
[SWoPP—並列/分散/協調プログラミング言語と処理系]
- 10 月 29～30 日 オンライン開催
- 1 月 13～14 日 オンライン開催
- 3 月 16～17 日 オンライン開催

このうち、第 130 回が他研究会との連続開催であり、残りの 4 回が単独開催である。研究会論文誌に投稿された論文は、まず研究会でその内容が発表され、発表会の直後に開催される研究会論文誌編集委員会において議論し、査読者を定めて本査読を行った。

研究会では、例年どおり、投稿の有無にかかわらず、1 件あたり発表 25 分、質疑・討論 20 分の時間を確保し、参加者が研究の内容を十分に理解するとともに、発表者にとっても有益な示唆が得られるように努めた。さらに、通常の発表形態に加えて、論文投稿をともなわない短い発表（発表 20 分、質疑・討論 10 分）も例年どおり募集し、萌芽的な研究等の発表を促進した。

本年度のプログラミング研究会の発表件数は 41 件であった。2016 年度は 45 件、2017 年度は 41 件、2018 年度は 54 件、2019 年度は 39 件であり、おおむね例年どおりであった。論文誌への投稿件数は本年度 20 件であった。2016 年度は 22 件、2017 年度は 21 件、2018 年度は 18 件、2019 年度は 15 件であった。また、採択件数は 10 件であった。2016 年度 13 件、2017 年度 12 件、2018 年度 13 件、2019 年度 6 件であり、採録件数は昨年度より増加し、今年度の採択率は 5 割であった。今後も発表件数・投稿件数を増やすべく努力をしていく所存である。

ここに、大変短い査読期間にもかかわらず論文査読の労をとっていただいた方々の氏名を掲げる。

2020 年度査読者

Jacques Garrigue	鷗川 始陽	遠藤 侑介
亀山 幸義	河内谷 清久仁	倉光 君郎
鈴木 貢	澄川 靖信	津曲 紀宏
中澤 巧爾	中田 秀基	堀江 倫大
前田 敦司	松田 一孝	山田 晃久
結縁 祥治	吉村 剛	

本号の編集にあたって

2020 年度第 5 回研究発表会
担当編集委員 水島 宏太、橋本 健二

本号は、2020 年度第 5 回プログラミング研究発表会（通算第 133 回）からの採録論文 2 件と発表資料の概要を掲載している。

2020 年度第 5 回プログラミング研究発表会は 2021 年 3 月 16～17 日にオンラインで開催された。この回はテーマを特に設けず、幅広く論文を募集した。研究会論文誌への投稿をともなう発表のほか、論文投稿をともなわない発表を歓迎したこと、通常の発表（発表 25 分、質疑 20 分）に加え、短い発表（発表 20 分、質疑 10 分）も募集したことも、これまでと同様である。その結果、通常発表 6 件、短い発表 3 件、合計 9 件の発表が行われた。

投稿原稿の査読を議論する編集委員会会合は、開催日の昼休みや研究会終了後に、編集委員ならびに編集委員会が出席を依頼したメンバでオンライン上で複数回開催した。ただし、投稿論文の著者と利害関係のある出席者は、その論文についての議論の間は退席している。委員会会合では先の節に記した対象分野、編集方針および査読基準に従って、各投稿論文の評価できる点について意見が交され、その場で可能な限り査読者の選定を行うようにした。各査読者は、編集委員会での議論をふまえて査読を行った。

最終的に、2020 年度第 5 回プログラミング研究発表会で投稿を希望した 2 件の論文（通常論文）が採録となった。他の発表については 1 ページの概要を掲載してある。掲載順序は論文、概要のそれぞれについて当日の発表順に従うこととした。

さらに、本号でも、英語による研究公開を促進することを目的として、日本語採録論文の英語化という試みを実施された。これは採録論文著者の希望に基づいて、著者が採録された論文を英語化するものである。なお、採録時の内容を変えないように英語化することと、英文校正を通すことが条件である。また、採録時の論文の内容と英語化後の論文の内容とに差異がないことは、英語化担当編集委員によって確認され、編集委員会によって承認される。本号では 2 件の日本語論文が採録され、英語化されて掲載されることとなった。

最後に、研究会開催および論文誌編集にさまざまなご協力を賜った皆様に深い感謝を捧げたい。